

循環型社会は地域から

北北中の利用法、住民に説明

群馬大学

桐生北中学校跡地（桐生市西久方町一丁目）を拠点に、移動体の遠隔操縦プロジェクトや地域資源活用プロジェクトに取り組んでいる群馬大学は5日、初めての地域住民向け説明見学会を開いた。いずれの取り組みも地域が抱える社会課題の解決を目指しており、実験・実装には地域住民の理解と協力が不可欠なだけに、群大大学院理工学府長の石間経章さんは約30人の出席者に「今後ますます大学を地域に開いていきたい」と方向性を示した。群大では2024年



8月から、桐生市の所有する北中跡地を借り受け、地域限定の高速通信規格「ローカル5G」を活用した遠隔運転の研究（遠隔操縦プロジェクト）や、地域の未利用資源を回収・変換・利用して持続可能な循環型社会のシステム

ム構築を目指す研究（地域資源活用プロジェクト＝桐生再生エネプロジェクト）に取り組んでいる。

これまでに遠隔運転に利用する1周2000メートルのオーバルと直線のテストコース、太陽光発電の充電設備や回収した資源の保管庫、監視室、車両倉庫などを設置。3月下旬にはドローン用のヘリポートも設けるなど、ハード面の整備は進み、走行データの実験や樹皮（パーク）の回収といった作業も始まっている。群大では産官学民の

北中跡地で進むプロジェクトについて説明を受ける住民ら（群馬大学桐生キャンパスの6号館で）



桐生北中跡地には新たにドローン用ヘリポートが設けられた

研究・交流拠点である6号館（スバル・イノベーション・コモンズ）の完成を受け、初めての住民説明会を実施。30人の参加者に向け、同大次世代モビリティ社会実装研究センター長の天谷賢児さんや桐生再生エネプロジェクト

のまとめ役である野田

玲治さん、松津賢人さんら教員が、プロジェクトの概要を説明し、施設を案内した。

参加した金子敏夫さん(78)は、「旧北中のそばに任んでおり、活動しているのは知っていたが、どんな実験なのか分からなかった。説明があると安心できるし、興味も湧く」と話した。

理工学府長の石間さんは「現在進めているプロジェクトについてはこれまで市民との連携が少なかった。交流拠点も完成したので、市民と一緒に社会実験に取り組みれば」と話す。

群大では19日の「アースデイ in 桐生」当日も、午後2時から6号館および北中跡地で説明見学会を開く予定で、「興味ある人はぜひ参加を」と呼び掛けている。希望者は当日直接会場へ。